ICT利用環境啓発支援室＆団体事務局の活動

ICT利用環境啓発支援室（S2E：Social Security Encouragement）の活動

[概要]

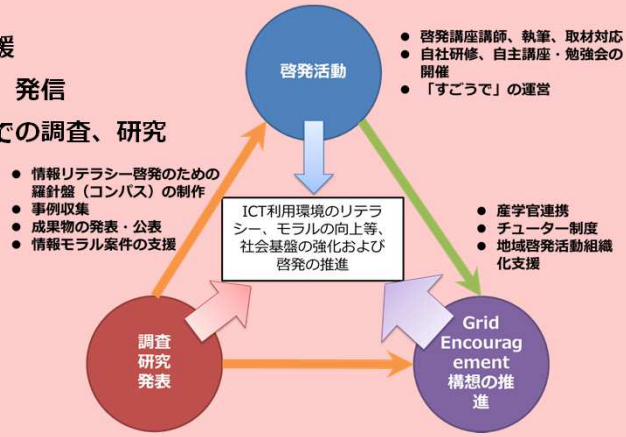
- 産学官連携、他の外部団体との連携による人材育成モデルの開発、支援活動
- Grid Encouragementを支える地域啓発拠点の開発、支援活動
- Evidence based Encouragementの根幹となる情報啓発シラバスの開発
- ラック社内からの啓発・支援要請対応

[セクション]

- ICT利用環境整備に関するイベントの運営協力・講演・執筆・研究活動、新しい情報環境下における利用者視点での情報セキュリティ、情報モラルの在り方と普及・啓発活動
- 学術的、地域実態、社会制度に基づく情報セキュリティ・モラル啓発のための調査・研究
- ICT利用環境整備（情報モラル、セキュリティ、消費者問題等）に関する地域啓発体制（Grid Encouragement）構築

[具体的な活動]

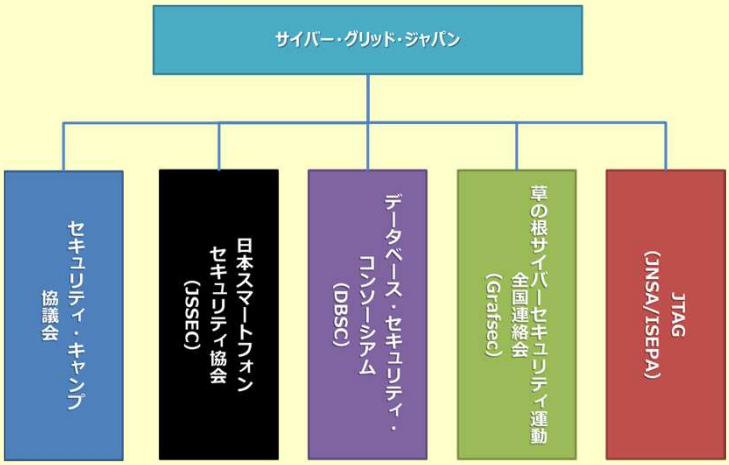
- 情報セキュリティ、情報モラル、消費者教育に関する地域啓発活動の支援
- 法学、社会心理学の研究者の監修による啓発教育シラバスの策定、検証、発信
- 社会制度、法改正等の情報やそれらを利用する環境変化に関する制度面での調査、研究
- 地域情報リテラシー、情報教育、啓発実態の調査・分析
- 教育の情報化、新学習指導要領における情報教育に関する調査
- 県警を中心とした産学官連携の対応と支援
- 10年後の人材育成を見据えたチューター制度のモデル化
- 「すごうで」の募集・支援実施
- 高校生ICT Conference の支援



関係団体事務局のご紹介

サイバー・グリッド・ジャパンでは、複数のサイバー・セキュリティに関連する業界団体の事務局業務を担当しており、団体事務局の運営を円滑にかつ堅実に行うとともに団体相互の有機的な連携により、それぞれの団体の目的の達成に寄与できるように努めています。

特にセキュリティに関する人材育成やセキュリティ意識の向上、セキュリティに関する技術交流などにより我が国のセキュリティの向上に寄与することを願っています。



一般社団法人セキュリティ・キャンプ協議会

次代を担う日本発で世界に通用する若年層の情報セキュリティ人材を発掘・育成するため、産業界、教育界を結集した講師による「セキュリティ・キャンプ」を実施し、それを全国的に普及、拡大していくことを目的として活動する団体です。
代表理事：西本 逸郎（株式会社ラック）

一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会

スマートフォンやタブレット型端末の不適切な利用やセキュリティ上の不備、悪意ある行為などにより利用者や事業者へ悪影響などによりその有効活用への機会を逸することがないように、安全な利活用を図り普及を促進するために活動している団体です。
代表理事：安田　浩（東京電機大学）

データベース・セキュリティ・コンソーシアム

情報の主たる格納場所であるデータベースに関わる高度なセキュリティに関わるスタンダードな技術・手法の確立を図るとともに、広く社会に「データベース・セキュリティ」の普及促進を図っていくことを目的として活動する団体です。
代表理事：安田　浩（東京電機大学）

一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会

国内各所でサイバーセキュリティに関する啓発活動を行う地域組織や団体、NPOなどの相互交流と連携を通じ、それぞれの課題の解決と支援を行い、より効果的な啓発活動と安心安全なインターネット利用環境整備に寄与することを目的として活動する団体です。
代表理事：安田　浩（東京電機大学）

JTAG（ジェイタッグ）

JNSA内の組織である情報セキュリティ教育事業者連絡会（ISEPA）にて2017年に開始した活動です。キャリアパスを踏まえたセキュリティ人材の育成ならびに、セキュリティ人材の市場価値認定をおこなうことで、人材不足の解消とセキュリティ人材のキャリア基盤拡充に寄与することを目的としています。
ISEPA代表：持田　啓司（株式会社ラック）

情報リテラシー啓発のための羅針盤（コンパス）

所属：ICT利用環境啓発支援室
氏名：清水 将人・伊井 あすみ

①背景

- 日常にあふれる不適切投稿や炎上に関するニュース
- SNS等に起因する犯罪被害の増加（重要犯罪も社会問題に）
- 文部科学省での学習指導要領の改訂（情報活用能力が学習の基盤に）
- 2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、大規模なサイバー攻撃が危惧される（政治的意図を持った攻撃、オンライン詐欺、DDoS攻撃etc.）

②現状の課題

インターネットを安心・安全に利用するための情報リテラシー習得の重要性が増している！！しかし・・・

- インターネットにおける様々なトラブル（インシデント）について、何をどう教えてよいか分からない
- 実際にトラブルを起こしてしまった場合に、どのような影響（法律や罰則含む）があるのか教えることができない
- 世代や立場（属性）により啓発すべき内容は異なるはずであるが、全て一緒くたもしくは世代や立場に限定的なコンテンツがほとんどで、的確な啓発がなされていない場合がある

③課題解決

【ICT利用環境啓発支援室のミッション】
自主的かつ継続的な啓発ができる社会基盤（地域）の形成に寄与すること

対象

地域社会や会社、学校等において情報リテラシーを啓発する講師やファシリテーター、先生、保護者

解決策

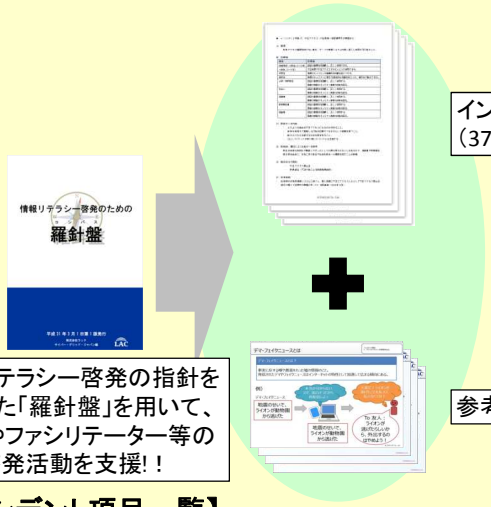
CGJにおける啓発活動の実践結果を基に、情報リテラシーに関するインシデントについて、啓発を行う際の指針（＝羅針盤）を整理し、冊子や電子ファイル（pdf）等で提供

羅針盤を用いた啓発活動を通じ、講師や受講者の方は情報リテラシーを身につけ、様々なトラブルにも対処できるようになることが期待される

④羅針盤の特徴（他のコンテンツとの違い）

1. 学術的根拠（情報リテラシー啓発に関するエビデンスや実践結果）のみならず、法教育（法的なものの考え方を身につけるための教育）の視点に基づいた監修を実施
2. 情報リテラシーに関するインシデントを、「情報モラル」「情報セキュリティ」、「消費者トラブル」の3つの分類に分け、37項目で整理
3. 様々な世代（子供から高齢者まで）や立場（保護者、教育関係者）に対する情報リテラシー啓発に対応

⑤羅針盤の構成（イメージ図）



情報リテラシー啓発の指針をまとめた「羅針盤」を用いて、講師やファシリテーター等の啓発活動を支援！！

【インシデント項目一覧】

1. 情報モラル

1. デマ・フェイクニュースを発信すること
2. 炎上させること
3. ネット依存
4. 健康被害
5. 誹謗中傷
6. 不適切投稿
7. ネットいじめ・ハラスメント
8. 犯罪予告
9. 著作権侵害
10. 肖像権侵害
11. プライバシー権侵害
12. ネット選挙運動違反
13. 出会い系サイトに起因する犯罪被害
14. SNS等に起因する犯罪被害
15. リベンジポルノ
16. 児童ポルノの製造、所持、頒布
17. 違法・有害コンテンツ
18. チート行為
19. 不必要な位置情報の付与
20. SNS公開範囲設定の誤り
21. フィルタリングやペアレンタルコントロール（OSの機能制限等）の未利用
22. ながらスマホ（歩きスマホ・運転中のながらスマホ等）

2. 情報セキュリティ

23. 偽警告
24. 不正アクセス
25. フィッシング
26. ウィルス（マルウェア）作成・提供・保管
27. ウィルス（マルウェア）感染
28. 情報漏えい（機密情報・個人情報等）
29. OSやアプリの未更新
30. 不十分なID/パスワードの取り扱い
31. 機器の紛失・破損

2. 消費者トラブル

32. 迷惑メール
33. 有害広告
34. 架空請求・不正請求
35. 高額課金
36. 情報商材
37. オンライン売買仲介サービスでのトラブル（インターネット・オークション、フリマにおけるトラブル）

※2019年3月1日時点。
インシデント項目については継続して検討予定。

10年、20年後のセキュリティ人材育成モデル構想（チューター制度）

産学官連携を活かした人材育成モデル（チューター制）構想

小学生が将来なりたい職業では、特に男子では「ゲーム関連」が上位にあげられており、技術者を志向する子どもたちはまだまだ少ないのが現状です。さらに日常使用しているインターネットを支える「セキュリティ・エンジニア」という職業に対する認知は低く、セキュリティ分野での人材の確保が中長期においても不透明な状況です。

さらに、技術嗜好を持つ子どもたちは、年少時からITに触れ、自らの力でプログラミングやネットワークの知識を身に着けるとともに、技術の研鑽に励んでいます。同様の嗜好をもつ仲間が身近にはおらず、また相談ができる技術者との接点もない状況の中、正しい開発の手続きや法的な知識が不足しているがために、作成したプログラムが違法なものとなったり、インターネットの利用において不正アクセスなどを犯してしまうケースもしばしば発生しています。さらに　小学校でのプログラミング教育、中学・高校でもネットワークやセキュリティに関する教育のスタートを目前に控え、技術嗜好を誤ることなく技術志向に発展させることが必要です。

チューター制構想は、10年、20年後のセキュリティ分野を支える人材を発掘・育成するために、年少の段階でITに触れる子どもたちと、開発やセキュリティの最前線にいるエンジニアとの交流の場を設けることを想定しています。また地域の産学官民がともに協力し、日常的かつ安全に意見交換や相談ができる環境を構築することで、「セキュリティ・エンジニア」という職業の認知の向上と地域における将来のセキュリティ人材育成の一助となる仕組みづくりを検討しています。

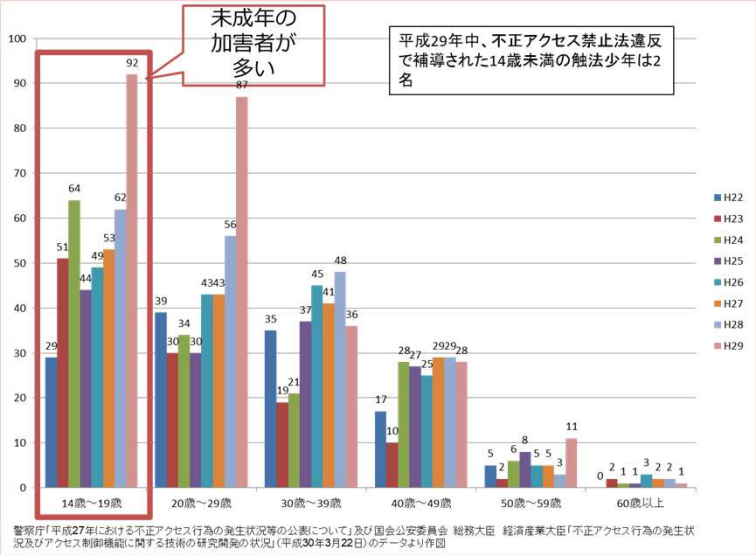
1	プロスポーツ選手
2	パティシエ
3	ゲームクリエイター
4	医師
5	保育士
6	看護師
7	美容師
8	薬剤師
9	ファッションデザイナー
10	イラストレーター

ITに限らず、エンジニアや技術者など、技術志向の子どもたちは決して多くない

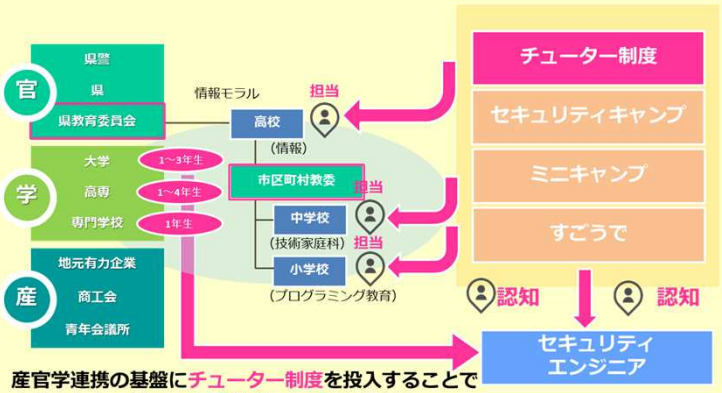
48位　プログラマー
62位　エンジニア
92位　ロボット設計技術者

「13歳のハローワーク公式サイト」より人気職業ランキング（2019年1月1日～1月31日）
https://www.13hw.com/jobapps/ranking.html

不正アクセス検挙者数

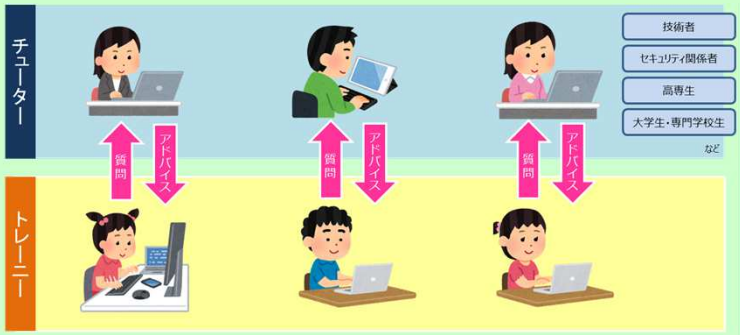


産官学連携を活かした人材育成プラン



産官学連携の基盤にチューター制度を投入することで未来のセキュリティ人材育成をより積極的に！

チューターとは？



チューターとトレーニーがゆるやかにつながることにより、トレーニーにおいて生じる日常的な疑問に対して、進路や技術的な学習方法、モラル醸成（社会におけるルール）などをチューター側の負担が高めず、（メール、SNSなどICTを活用しながら）アドバイスをおこないます。

「すごうで」プログラムによる人材育成

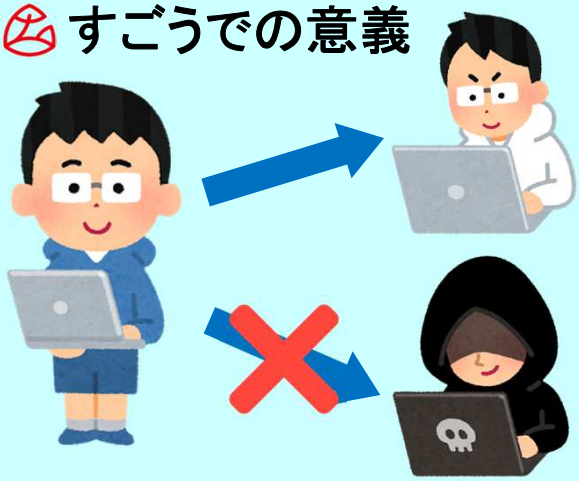
ICT利用環境啓発支援室　落合博幸・伊井あすみ

すごうでプログラムとは？

スゴウデ
SUGOUDE
IT Super Engineer Support Program
Supported by LAC

- 正式名称 「ITスーパーエンジニア・サポートプログラム」
- 自らの突き抜けたITスキルによって、「社会を変えたい」「社会に貢献したい」という夢を持つ若者に対し、夢の実現のための具体的な取り組みを支援するプログラム。
- 上限100万円の資金提供と当社技術者のサポートにより、夢の実現を本気でバックアップ！

すごうでの意義



若者のスキルを健全に伸ばし、将来のIT業界をリードするトップガン人材に育てる！

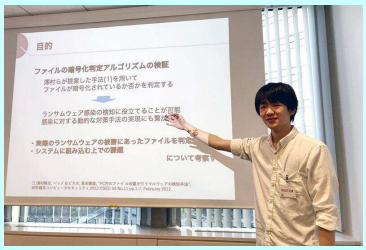
すごうでのこれから

- より応募しやすい募集方法へ（通年募集など）
- 他団体プログラムとの連携による継続・発展的な支援へ
  - -セキュリティ・キャンプ（IPA）
  - -SecHack365（NICT）
  - -U-22プログラミングコンテスト（METI）
  - -未踏ジュニア（IPA）
  - -中高生国際Rubyプログラミングコンテスト（同実行委員会）

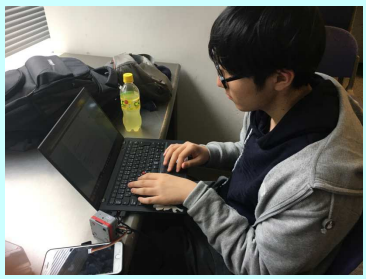
これまでの「すごうで」たち（敬称略）

2014
SECCON全国大会優勝
DEFCON出場
Team EpsilonDelta（15～21）

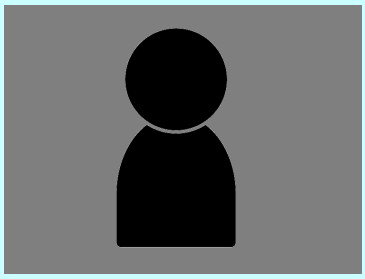
2015,2016
米国の教育現場、IT企業の視察
BitCoin Walletの開発
山内奏人（13）



2017
RansomWare対策アプリの開発
小高拓海（19）



2018
転倒を検知してアラートするWareableDeviceの開発
樋口光輔（17）



2019
本日発表？？